

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、話す・聞く能力については基礎ができていた。 ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けて読む問題に課題がある。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、昨年度よりも下降傾向にある。 ・発言の意図を捉え、自分の考えを広げたり、深めたりする問題に課題がある。
	よくできた問題	登場人物の人間関係や心情、場面についての描写を捉える問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	文章の内容について、根拠や理由を明確にし、自分の考えをまとめる問題の正答率は低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回ることができた。数量についての正答率が特に高かった。 ・図形についての角度についての問題に課題がある。
	よくできた問題	たし算とかけ算が入った整数と小数を計算する問題において、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	図形の問題で2つの図形の性質を活用して、答える問題について正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回ることができた。図形など応用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・数学的な考え方が高く、応用ができるようになった。
	よくできた問題	示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題についての正答率が高かった。
	努力が必要な問題	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲームを全くしない児童の割合は増加し、2時間以上している児童の割合も昨年度より減少した。 ・スマホ、携帯電話の所持率は増加したが、「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組により、2時間以上使用している児童の割合は昨年度より減少した。 ・新聞を毎日、読んでいる児童の割合は増加した。 ・朝食を毎日、食べている児童の割合は増加した。 ・将来の夢や目標を持っている児童の割合は全国平均よりも多いが、昨年度よりも減少した。日頃から夢を実現させるために具体的な目標を設定させていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・朝のチャレンジタイムで書く力と説明する力を高めるために、2つの事柄について好きか、嫌いかを決め、その理由を書き、隣の友達に説明する「問答ゲーム」に取り組んでいる。 ・学校全体で1時間の授業で学びボードという学び合いのためのボードを活用している。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の学校生活や家庭での自学、宿題などを確認するための「どうのびっこがんばりカード」を配布し、毎日確認し、月曜日にコメントを書いて返却している。
--